

認定NPO法人フリー・ザ・チルドレン・ジャパン
2019年度 事業計画
2019年1月1日から2019年12月31日まで

1. 2019年度の事業実施方針

今年フリー・ザ・チルドレン・ジャパンは設立20周年を迎えます。20年の歩みを振り返り、確実に20年前よりも、国際協力の現場である支援地域の状況は良くなってきています。また、20年前は世界に児童労働者数は2億4600万人おり、実に世界の6人にひとりの子どもが児童労働に従事しているという報告がILOから出されておりましたが、最新データによると、児童労働者数は1億5200万人で、世界の10人にひとりの子どもに相当する数字であるということです。

児童労働者数が減少傾向にあるということは、喜ばしいことです。一方で、未だに10人に1人の子どもが児童労働に従事しているという状況を考えると、引き続き世界の貧困下に置かれた子どもたちに目を向け、権利が守られ自立できるよう協力していきたいと思いを新たにします。

国内の子どもに目を向けてみると、子どもが社会問題に声をあげ活動する事例は20年前に比べて非常に多くなってきたと大変嬉しく感じます。子どもがボランティア活動をしたり、社会や世界のためにアクションを起こすといった事例は珍しいことではなくなりました。しかし、日本にいる子どもたちの権利や尊厳が守られているかどうかについては非常に大きな疑問があります。

今年は、子どもの権利条約が国連でつくられて30周年、日本政府が子どもの権利条約を批准し25周年を迎えます。日本では子どもの権利が守られていると感じている方も多くいるかもしれませんが、近年10代以下の日本の子どもの自殺は各年代の中で唯一増加傾向にあります。また、虐待や暴力によって子どもたちが命を落としてしまうニュースもよく聞かれます。日本の子どもへの調査によると、「自分自身に満足している」と回答した15-25歳は、アメリカ86.0%、イギリス83.1%、に対し、日本は45.8%（内閣府『平成26年版 子ども・若者白書』）となっており、その他調査（平成26年度「子ども・若者白書 特集 今を生きる若者の意識～国際比較からみえてくるもの～」）によると、「自分の参加により、変わってほしい社会現状が少し変えられるかもしれない」と答えた高校生は、日本では30.2%で、他6か国の平均46.25%に比べ著しく低い結果となりました。

周りとの調和することばかりが、日本の社会は無難とされる中、世界に目を向けて、様々な立場に置かれる人々や異なる価値観を理解し、自分たちができることを考える機縁をつくるのが今の日本の子どもや若者に必要なのではないかと、設立20年で強く感じていることです。

これらの状況や課題を踏まえ、2019年度は下記の活動に注力したいと計画しています。

▼2019年度重点活動

1. WE Schools (子ども若者が、社会課題に向き合い解決に向けたアクションを起こしていくサービスマーケティングプログラム)を全国の教育機関や青少年グループに対して展開していくため全国キャラバンの実施。
2. WE Day開催を2020年または、2021年に日本で実現できるよう、様々な組織、人とのネットワーク構築や資金調達を行い、実施に向けた運営チームを結成。
3. 子どもの権利条約採択30周年であることから、国内での子どもの権利条約の更なる普及と周知のため他組織や行政と連携しながら特別キャンペーンを展開。
4. 2018年度に引き続き、SDGsで掲げる目標の達成に向け、貧困などが原因で権利が守られていない開発途上国の子どもに対し、現地のNGOや組織、受益者自身と寄り添い国際協力活動を実施。

以上、設立20周年という節目の年に、子どもの権利の擁護のため、多くの方々や組織のみならずと連携し、より良い活動を実施していきたいと考えておりますので、2019年度もどうぞよろしくお願いいたします。

代表理事 中島 早苗

2. 事業の実施に関する計画(案)

<WE Movement>

・子ども主体活動

活動名	活動内容	日時	場所	受益対象者の範囲及び人数	事業予算(千円)
アンバサダー企画活動	2019年度のアンバサダー(旧子ども代表委員)によって企画運営します。全国の子ども達がより活発に良い活動し、子ども同士で情報交換や交流を深めるための活動を企画していきます。 日時・場所:通年・全国(主に団体)	通年	全国	全国の子ども達 800人	46
メンバーチーム活動	メンバーとして登録する子どもやユースが目的に応じてチームを組んでの活動します。(チョコプロ、インドチーム、フィリピンチームなど) 日時・場所:通年・全国(主に団体)	通年	全国	子ども 1500人	2,279

・子ども活動応援

活動名	活動内容	日時	場所	受益対象者の範囲及び人数	事業予算(千円)
子ども若者育成	子ども・ユースを対象にしたリーダーシップトレーニング「Take Action Camp」の実施。カナダでのイベントは、EFグループとともにデザインし実施する。 ▼Take Action Campとは、子どもや若者が国内外の社会問題を知り、その解決に向けてアクションをおこすためのノウハウを学び、自分に何ができるかを考えるための合宿型育成研修イベント ※カナダでのイベント名は「グローバル・チャレンジ・プログラム」	春の連休や夏休み中に3~5日間で実施予定 計2回実施	日本	国内の子ども・ユース 80人	2,783
		トロントにて1週間のEF語学学校での英語習得と1週間のTake Action Campの実施で合計2週間の予定	カナダ		1,760
	ボランティアトリップ(スタディツアー)の実施。Free The Childrenプログラム(海外自立支援活動)を展開する開発途上国の国際協力活動の事業地を訪問し、現地の人々と交流する1週間程度のツアーの開催。対象は子どもや若者だけでなく、おとなも参加できるようにし、年代を超えて楽しめるツアーにする。また、学校のプログラムとしてオーダーメイドのツアーの実施も行う。	春休み、夏休み、その他	フィリピン、インド、ケニア	国内の子ども・ユース・おとな 45人	3,120
	ファシリテーター育成活動 リーダーシップトレーニング キャンプやワークショップを実施するためのスタッフの育成	通年	主に東京都	全国の子ども達・ユース 50人	155
	メンバーのサポート、ボランティアの受け入れのほかに、地域に密着し、自治体と共に子どもやユースを対象にしたリーダーシップトレーニング、国際理解・共生社会実現・ワークショップ企画運営を実施する。	通年	主に東京都	全国の子ども達・ユース 50人	413

子どもメンバー活動サポート	①子どもメンバーなどで構成される活動チームの育成、サポート、チームの存在を紹介する広報活動を実施。	通年	全国	チームに所属する 全国の子ども達 80人	114
	②子どもメンバーのギャザリング 年に1回同窓会、活動発表の場を設け交流を図る	通年	全国	全国の子ども達 800人	125
	③全国の子ども達からの質問、活動へのサポート 毎月の活動ヒント講座、子ども達からの質問対応、情報提供などまた、子どもが活動しやすい会員制度の検討	通年	全国	全国の子ども達 800人	116
国内の子ども支援	【国内の子ども支援】 国内の子どもの権利を守るため、権利を奪われ支援が必要な状況にいる子どもの状況や問題に直面する国内の子どもの支援の方法について調査を継続する。必要に応じて他組織とネットワークを構築する。また、日本の貧困やいじめ、差別などの問題について学ぶワークショップの開発等	通年	全国	日本で困難な 状況にある 子ども200人	58

・外部ネットワーク活動

活動名	活動内容	日時	場所	受益対象者の 範囲及び人数	事業予算 (千円)
外部ネットワーク構築	①CL-Net(児童労働ネットワーク)・NGO労組協働フォーラムへの運営委員参加と事業実施 ②JNNE(途上国の子ども教育支援事業NGOのネットワーク)への参加と事業実施 ③JANIC、DEAR、他組織の会員になって他団体と繋がって活動する。 ④SDGs関連などのネットワークへの参加 ⑤世田谷区や東京都との教育の観点から連携事業の実施を計画する。 ⑥関西でのNGO/NPOネットワークへの参加	通年	全国	子どもの権利を 侵害されている 開発途上国及び 国内の子ども	1,185

・WE Schools / アドボカシー(啓発)活動

活動名	活動内容	日時	場所	受益対象者の 範囲及び人数	事業予算 (千円)
WE Schools	①WE Schoolsの教材開発 教材を完成させ、年度ごとの資料開発を行い続ける。 ② WE Schools全国展開 全国の学校など教育機関に、WE Schoolsの周知を行い、登録を促す。学校との連携事業を強化する。	通年	全国	全国の子ども 達・一般人: 10,000人 教員:100人	1,302
20周年事業	① WE Schoolsキャラバンと各地のメンバーの活動を結びつけるキャラバンを実施。全5か所を検討。 ②WE Schoolsの体験会実施	通年	全国	全国の子ども 達・一般人: 10,000人 教員:100人	2,584
出前授業	全国出張講演 国際協力や国際理解教育、人権教育に関心のある学校からの要請を受け、出張講演を実施する。 2019年度目標:100校での実施を目指す。	通年	全国	全国の子ども 達・一般人: 10,000人 教員:100人	1,614

イベント	他団体主催によるイベントへの参加及びFTCJ主催イベントの開催:パネル展示、動画上映、スピーチなどを通して、権利を奪われた子どもの現状や団体活動紹介をする。同時に可能であれば物販活動も行う。 予定)グローバルフェスタ、メーデー中央大会、ワン・ワールド・フェスティバル等。 また、WE Dayの開催を視野に入れ実施のための特別チームを設置し、外部組織からコンサルテーション支援を受けながら調査、準備を行っていきます。	通年	全国	全国の子ども達 ・一般 10,000人	395
メールマガジン ニュースレター アニュアルレ ポートの発行	①メールマガジンを毎月2回発行する。 ②ニュースレター(年3回)を発行する ③アニュアルレポート(年1回)を発行する。(各600部)	通年	団体 オフィス	全国の子ども達 ・一般 3,000人	549
ホームページの 開設運営	①ホームページのリニューアル作業、更新。 ②サーバー管理	通年	団体 オフィス	メンバー100人	385
物販・貸出	貧困層の自立につながるフェアトレード商品や国際理解教育教材(DVD)や書籍などの仕入れ、紹介、販売、管理を行う。また店舗での委託販売先の開拓も開始する。 2018年度目標:収益200万円を目指す	通年	全国	メンバー100人	366
団体広報	①キッズパワー募金の広報 団体の活動をわかりやすく伝え、団体を支えていただく人を増やしていく ②動画作成 先生や子どもたちのニーズに合わせて動画などを作成	通年	全国	メンバー100人	182

・WE DayX 活動

活動名	活動内容	日時	場所	受益対象者の 範囲及び人数	事業予算 (千円)
WE DayX 日 本開催準備	2006年にカナダで始まったWEDayの日本版を2020年春に開催することを視野に入れ、準備をすすめる。	通年	全国	全国の子ども達 5000人	4,232

<Free The Childrenプログラム>

・国際協力活動

活動名	活動内容	日時	場所	受益対象者の 範囲及び人数	事業予算 (千円)
インド	【CCD支援】 西ベンガル州コルカタ付近にある現地NGO・CCDを通じて「マクタニール子どもの家」(養護施設)で生活する元ストリートチルドレンなどの貧困家庭出身の子どもたちや貧困コミュニティへ教育支援や健康支援事業を行う。また日本の支援者と受益者の子どもと手紙を通じた交流「文通プログラム」を運営する。	通年	インド 西ベンガ ル州	インドCCD養護 施設の子ども達 40人	2,147
	【FTCネットワーク活動】 ラジャスタン州ウダイプール周辺の貧困農村地域を対象に、教育支援、水源確保、栄養強化及び健康向上、農民の収入向上支援を行い、農村の生活環境向上と、子ども達の教育へ充実を図る。	通年	インド ラジャスタ ン州	支援先農村の 村民1500人	1,670

フィリピン	【ミンダナオ島コミュニティ自立支援】 手紙を通じた交流「文通プログラム」の運営を通じた資金をもとに、ミンダナオ島内の先住民族の子どもへの教育支援を行う。	通年	フィリピン ミンダナオ島	先住民族の子ども達 20人	476
	【その他貧困地域・子ども支援】 フィリピンの支援が必要な貧困地域や権利を奪われた子どものニーズをもとに、現地パートナー団体と協働し、教育、保健、水、収入向上の側面から地域の自立に向けた国際協力活動を行う。	通年	フィリピン	貧困農村地域住民及び、虐待や刑務所などから救出された子ども 500人	488
	【障害者支援】 フィリピン国立盲学校と連携し、同学校に通う学生が安心して健康的な環境で質の良い教育を受けられるよう環境を整える。更に、未就学児童の状況や学校に通う子どものニーズを調査し、その他の地域にいる視覚障害児への教育支援を開始する。	通年	フィリピン	国立盲学校に通う視覚障害者の子ども150人及び、その他視覚障害児100人	1,445
	【マラウイ避難民支援】 2017年5月に勃発したフィリピン軍と武装勢力による戦闘から逃れるために避難民となった子どもやその家族への復興支援を行う。	通年	フィリピン	マラウイ市出身の国内避難民となった人々1000人	488
ケニア	【FTCネットワーク活動】 ナロック群南ナロック県エシノニ村を対象に、水支援事業「ケニア深井戸建設及び給水システム確立プロジェクト」を行い、持続可能な人々の健康向上及び生活の質的向上を目指す。また、女性の収入向上支援を行い、農村の生活環境向上と、子ども達の教育へ充実を図る。	通年	ケニア	支援先農村の村民 1500人	1,775
その他地域	WE Charityが行う上記以外の国（シエラレオネ、タンザニア、エチオピア、ハイチ、中国農村部、エクアドル、ニカラグアなど）の貧困農村地域への自立支援事業を連携して取組む。	通年	事業地	支援先地域住民 1,000人	188

・国内子ども支援

活動名	活動内容	日時	場所	受益対象者の範囲及び人数	事業予算(千円)
国内の権利が奪われた子どもへの支援活動	災害や、貧困、差別やいじめなどによって権利を奪われ、苦しい思いをし、何らかの手助けが必要な国内の子どもに対して、フリー・ザ・チルドレン・ジャパンとして直接または間接的に支援し、子どもへのエンパワーメントを行う。	通年	全国	権利を奪われ助けが必要な日本の子ども	49

管理部などその他この法人の目的を達成するために必要な事業に関する計画

管理部

活動名	活動内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	事業予算(千円)
翻訳	事業の運営に関係する資料を日・英に翻訳。	通年	東京	30	120
研修受講	円滑な組織・事務局運営のため研修を受講	通年	東京	4	80
個人情報管理	メンバーや協力者などの個人情報を整理し管理を行う	通年	東京	4	800
ファンドレイジング	サポーター増強、googleアナリティクスの運用など	通年	東京	3	
問い合わせ対応	メール、電話、FAX、郵送にて事務局に届く問合せや連絡に対応。対応例：事務所訪問、出張講演調整、教材や物販の注文、団体など組織からのアンケートへ返答、子ども、大学生、社会人からの質問返答、メンバー希望、団体への質問返答など	通年	東京	3	500
会計	組織の透明な会計のための団体に関する資金の流れを管理し帳簿を付けるなどの業務を実施。	通年	東京	2	2250
理事会運営・管理	事業を円滑に実施するための理事会の運営。	通年	東京	11	90
その他	事務所運営管理など	通年	東京	5	53